

見えてきた?覚悟が必要な21世紀

第一生命経済研究所 専務取締役経済調査部長 佐久間 啓



今年の3月、韓国で行われた囲碁の人工知能(AI)と世界最強と言われるプロ棋士の戦いでAIが勝ったことが大きなニュースとなった。以前からボードゲームのチェス、将棋、囲碁についてはコンピュータープログラムとプロ棋士による対決が行われてきた。どのゲームが最も複雑で難しいのかは置いておくとして、1997年には当時のチェスの世界チャンピオンがコンピューターソフトに負けたことから遂にこの世界もコンピューターソフトに席卷される日が来るのかと多くの人が技術進歩のスピードに驚き、新しい時代の到来を確信した。

その後も将棋と囲碁についてはソフトウェアの開発が進められたがトッププロのレベルには程遠く、勝てるようになるのはまだまだ先という人も多かった。ところが、ここ数年のAIの技術進歩で格段にレベルが上がり将棋でもプロ棋士との団体戦で勝利を収めることができるようになり、遂に最も難易度が高いと言われていた囲碁でトッププロに勝てるまでできたということだ。加えてこの勝負を解説していた専門家によればAIは戦いを重ねるごとに強くなってきたとのこと。まさしくプログラムされたものを実行するだけでなく自ら学んで成長できるAIの凄さ、可能性を見せてくれたように思う。

数年前に技術的にブレイクスルーがあったということのでこのところのAIの技術進歩には目を見張るものがある。今まで人間にしか出来なかったことがAIを搭載したロボット、PCが出来るようになる時代がやってくる。仕事を機械に奪われるという言い方をしたりするが、産業革命以降ある意味機械にできることは機械にやらせて社会は成長してきたと言える。日本経済は労働供給制約という人口問題を抱えているので成長のためには労働生産性を上げていくしかない。AIの活用は必須と言える。AIの技

術進歩のスピードを考えると50年後には今では映画で見ることができない世界が普通の時代になっているかもしれない。

毎年この時期は政府が成長戦略を練り直す時期であるが、今年はAIや情報技術を使って産業の高度化を図る「第4次産業革命」の推進を柱の一つに掲げている。この「第4次産業革命」についてはいずれの分野においても多くの国、企業がデファクトスタンダードを狙って研究、開発に力を注いでいる。AIが普通の生活に入ってくるのは大分先の話だと悠長に構えていると社会の仕組みも21世紀の技術に対応することができず世界の中で取り残されることになるかもしれない。成長戦略の一つの柱として進めていくのであればスピード感を持った対応が必要ということだ。また、成長戦略は産業競争力強化=投資の拡大という方向に目が行きがちだ。確かに研究には莫大なお金がかかる。研究開発資金の確保は必要条件だ。しかしAIや新しいテクノロジーに必要なのは人材と自由な研究、開発環境だ。また新しい技術の普及にはルールブックの書換えや多くの壁を壊すことも必要になるだろう。新しい市場を作るといふのなら大胆な規制緩和を進める覚悟も必要だ。

AIの技術進歩は我々にどんな21世紀を見せてくれるのだろうか。AIの技術進歩が社会に与えるインパクトは甚大で、哲学、芸術にも大きな影響を与えていくという専門家もいる。AIはいいことばかりではないのかもしれないが、待たなしの日本経済はAIを世界で一番うまく活用している国と言われるような社会を実現しなければ豊かな国として生き残れないのではないか。いろいろと覚悟が必要な時代である。